

第52回日本臨床心理学会  
【一般社団法人化第1回】年次大会

\*\*\*\*\*

予稿集・発表/展示目録

\*\*\*\*\*

- ◇ 公開シンポジウム 予稿集
- ◇ 社員自主企画ポスター発表・出展等一覧
- ◇ 口頭発表 予稿集

平成28年6月25日(土)・26日(日)

於: 姫路市 市民会館

一般社団法人日本臨床心理学会  
姫路大会事務局

## ご挨拶

大会長 實川 幹朗

日本臨床心理学会は6月25日(土)から26日(日)、姫路市で第52回の年次大会を開きます。一般社団法人となつてからは初めての、第一回大会となります。また、このたびは「全国オルタナティブ協議会」との共催で運営します。学会のこれからの探るよすがにもなるはずです。

大会の趣きにこころの「医療化、を問う」を掲げました。副題が「公認心理師に未来はあるか?」です。

昨年9月、「公認心理師」法案が国会を通りました。心理職に国家認定資格が定まったのです。日本人の心のあり方を、国家からお墨付きを得た専門家が左右する時代になりました。この日を、数十年間の懸案の解決と待ちわびていた関係者もたくさんいます。しかし、心配がなかったわけではありません。一番は、わが国の医療体制の利害が、心の癒やしを呑み込む恐れです。

この国家資格を進めてきたのは「全国保健・医療・福祉心理職能協会」(全心協)です。これは心理職の団体ですが、「日本精神科病院協会」(日精協)の支えあってこそ実現に漕ぎ着けられました。すなわち、精神科医を中心に精神医療を実地に進める人たちが歓迎したのでした。強い力を持つ圧力団体ですから、政治家も動きます。これを見て、わが国の心理学界でもっとも権威ある団体「日本心理学会」なども随ってきました。

40年ほどにわたり「臨床心理士」の国家資格化を目指してきた「日本心理臨床学会」などは、及び腰でした。彼らの組織した「臨床心理職国家資格推進連絡協議会」(推進連)は、医者と対等以上の「心の専門家」を目指していたのです。しかしじつは彼らに、それほどの知識も技もありません。面目と利権の高みを夢見たものの、「現実」の力関係のもと「千載一遇の機会」と、おこぼれに預かる立場を受け入れました。

医師の指示を受ける立場とは、「こころの医療化」に与することです。心が医療体制の管理下に入るとは、どんなことなのでしょうか?

精神科医たちは、心の「障害」を見つけ出そうとします。あたかも「まっとうな人間」の条件を知り尽くしているが如くに、変わり者、外れ者に「治療」を求めます。だが医学は、医師は、それだけの見識と技量を備えているのでしょうか?

げんに「鬱病」や「発達障害」などで、曖昧かつ手軽な、ないし偏見に基づく診断基準により、効果が疑わしく副作用の多い薬の大量投与が起こっています。学校に馴染めない生徒が服薬を強いられる場合もあります。ところが、こうした脳神経に働く薬は、いちど飲み始めると止めるのが難しくなります。

臨床心理学という学問は、ほんとうなら、魂のあり方を見極め、力の強い者が心を抑えつけるのに歯止めを掛けねばならない。かつての日本臨床心理学会は<共に生きる>を掲げ、「障害者」と括られる側、「される側」に立つと唱えていました。ところが、ある時から自分たちの生業の方が大切になり、さらには利権集めに向かいました。そのためには「グローバル資本主義」になびく国家の一歯車と成るのを厭わなかったわけです。すなわち、「する側」に寝返る裏切りに他なりません。

私たち一般社団法人日本臨床心理学会は、こうした「心の専門家」集団と一線を画します。近代医療が人の命を取り仕切る枠組みが、いよいよ強まっています。しかし、多くのひとたちがこうした権威に疑いを抱きはじめてもいます。ことに心の領域についてはそうです。近代医療は選択肢の一つとしてのみ認める「オルタナティブ」な生き方、身心の癒やしの立て替え直しを、みんなで目指せるようになりたい。

「専門家」の権威という鎧を外し、違う者どうしが出会い、いずれもが仕合せとなる<お互い様>を追究してゆきましょう。実践の様ざまな有り方を互いに受け容れ、自からが活かされている礎に立ち返って問い直すべき時を、いま迎えているのです。

平成28年5月吉日

◇一般社団法人日本臨床心理学会理事会企画◇  
公開シンポジウム  
平成28年6月25日13:25～17:00 於：第6会議室

# こころの“医療化”を問う 公認心理師に未来はあるか？

《シンポジスト【五十音順】》

- 梅屋 隆 一般社団法人精神保健福祉士事務所cocoro  
江端一起 キーサン患者会【前進友の会 精神病患者会】  
小林万里子 ブルース系シンガーソングライター  
高橋 哲 芦屋生活心理学研究所・兵庫県スクールカウンセラー

【司会】金田恆孝 東淀川教会

「公認心理師法」が昨年9月に成立しました。この国家資格には、「医師の指示に従う」義務があり、いま社会問題となっている過剰な「医療化」が、国民ひとりひとりのこころの中にも分け入って押しすすめられるかも....そんな危うさを感じている人も少なくありません。

「公認心理師」法制化によって、わたくしたち一般市民の生活にどのような福利が得られるのか、あるいは、今は表立たない大きな問題をはらんでいないのかを、＜現場＞からの生の声で語り合います。

シンポジストは、歴史ある精神病患者会「前進友の会」から江端一起さん、ブルース系シンガーソングライターの小林万里子さん、兵庫県スクールカウンセラー・スーパーバイザー高橋哲さん、精神保健福祉士事務所を独立開業した梅屋隆さんです。

司会は金田恆孝さん（東淀川教会牧師）が務めます。

# シンポジウム登壇者予稿（発表要旨）

## 「公認心理師」の問題性～PSWの視点から～

梅屋 隆（精神保健福祉士・精神保健福祉士事務所COCORO代表）

### 【1】 はじめに一問題意識の整理

- (1) 精神保健福祉士とは？「精神科ソーシャルワーカー」とどのような意味で区別されるか。
- (2) 「国家資格」としての「精神保健福祉士」の意味。プラスとマイナス。
- (3) 「精神保健福祉法」と「精神保健福祉士法」  
⇒前者は精神当事者に対する強制入院合法化がそのもっとも主要な本質。  
⇒後者はPSWの形式的な資格の規定ばかりの基本的には無内容な法律であるが、「第4章 義務等」はきわめて重要。
- (4) これらの法律の持つ意味。  
  
⇒ 一面ではPSWのSWとしての活動に根本的な制約を課すもの。無自覚でいるとその根本的な制約の枠内での活動に留まる。  
  
⇒強制入院に対する態度。多剤大量服薬に対する態度。ECTに対する態度。その他現実の精神科医療（入院・外来・デイケア等々）のありとあらゆる不正、不法、人権蹂躪の無数の現れに無批判を決め込む以外になくなる。
- (5) 私たちにとって重要なことは現にある法律の根本的な欠陥や様々な制約や限界の中に身を置きながら、精神当事者の本質的な利害を代表して、常に当事者と共に進む存在とならねばならない。
- (6) 今私たちの周囲に生起する諸問題に対して、当面する改革の取り組みのための政策や方針を考え、実践に移すことと併せて、それらの諸問題の生起する根本的な原因を常に追求し明らかにし、現代社会の根本的に歪んだ在り方に対して正面からの批判と闘争を挑んでいく必要がある。⇒PSWの社会的使命の徹底は、ここに導く。

### 【2】 それぞれの法律の規定によれば・・・

- (1) 公認心理師 「主治の医師があるとき」、その指示を受ける。

《根拠法「公認心理師法」》

「第四十二条 公認心理師は、その業務を行うに当たっては、その担当する者に対し、保健医療、福祉、教育等が密接な連携の下で総合的かつ適切に提供されるよう、これらを提供する者その他の関係者等との連携を保たなければならない。  
2 公認心理師は、その業務を行うに当たって心理に関する支援を要する者に当該支援に係る主治の医師があるときは、その指示を受けなければならない。」

- (2) 精神保健福祉士 「主治の医師があるとき」、その指導を受ける。

## 《根拠法「精神保健福祉士法」》

「第四十一条 精神保健福祉士は、その業務を行うに当たっては、その担当する者に対し、保健医療サービス、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第五条第一項に規定する障害福祉サービス、地域相談支援に関するサービスその他のサービスが密接な連携の下で総合的かつ適切に提供されるよう、これらのサービスを提供する者その他の関係者等との連携を保たなければならない。

2 精神保健福祉士は、その業務を行うに当たって精神障害者に主治の医師があるときは、その指導を受けなければならない。」

### (3)この規定の持つ重要な意味

①本質的な違いを認めること。対医師との関係。このことの持っている重要な意義。

◇「公認心理師」は、「医師の指示」を必須とする。⇒「医学モデル」にもとづく実践をまずは強要される。医師の指示の枠内にとどまることを強制される。

◇これに対してPSWの場合、「医師の指導を受け」れば良いのであり、法的に援助職としての独立性ははるかに保たれている。

②この違いは決定的に重要であり、いわばPSWは、本来、労せずして「医学モデル」と一線を画し、精神当事者への生活モデルに基づく支援、援助活動を行うことができる。これを理解しておれば、精神医療の現場でも、「医学モデル」に基づく当事者処遇に対抗する実践を系統的に行うことも決して不可能ではない。だが現実は・・・。(今回は触れない)

③逆に「公認心理師」の場合、医師の指示なしには何もできず、出発点から「医学モデル」に基づく処遇となるほかはない。一方で、法の規定によれば、「公認心理師」は「保健医療、福祉、教育等」と社会の幅広い分野における業務が挙げられており、それら医療と異なる分野においても医師の指示に基づく活動が強制されることとなる。これはどう考えてもおかしな話である。医者と医学が社会のいわば主要な分野に口を出し、上から目線で指示命令を下すのか。これがまさにわれわれの批判の対象としている「社会の医療化」であり、なんでもかんでも「医学モデル」に基づく「治療」の対象とってしまうことである。結局、「公認心理師」とは、社会にとって「医学モデル」に基づく害毒を垂れ流す存在でしかないということは明らかであろう。

### 【3】最後に「権利擁護」と「自己決定」

(1) PSWにとってもっとも重要で本質的な仕事が精神当事者の「権利擁護」。

(2) では、「権利擁護」とは何か？ 当事者に成り代わって、当事者の多様なニーズを代弁すること?? ⇒ NO!

(3) PSWにとって、当事者の「権利擁護」とは、当事者の自己決定を実現すること。当事者が「自分に関わることのすべてにおいて自分で考え、自分で決定する」プロセスを本当の意味で共にすることの中にある。

(4) PSWは当事者が直面するすべての場面、局面において、当事者が「自己決定すること」の重要性に気づき、それを大切にすることができるよう援助する。

(5) PSWにとって最も重要と思われることは、「医学モデル」と訣別すること。「医学モデル」に囚われている限り、精神当事者に対する援助や支援は、どれもこれも中途半端で不真面目な実践に終始してしまうことは避けられない。「医学モデ

ル」を徹底して批判する中からのみ、「生活＝社会モデル」の見地をわがものとし、精神当事者とともに、当面する課題に真剣にとりくむことができる。

- (6) 現在のわが国の精神科医療が抱えている極めて深刻で重大な欠陥の数々－強制入院、強制「治療」、「患者」への日常的な暴行や暴言、死亡退院の多さ、超長期入院放置、多剤大量処方蔓延、電気ショックの復活増加、「良くならない」デイケア・ナイトケアへの「患者抱え込み」問題、病院敷地内あるいは近接地域での「障害福祉サービス事業所」の運営、認知症老人の精神科入院の激増、「退院と地域移行」における精神医療を軸とした患者管理による、「医学モデル」を強固な軸としての「患者」の地域生活の事実上の管理強化、などなど。「公認心理師」は、これらの現実にも無自覚、無感覚であれば、全く無力であるだけでなく、「医学モデル」のもとでの追従者、または隷属者として、これに意識的あるいは無意識的に協力・追随する存在となるしかない。

////////////////////////////////////  
**公認心理師とはナンなのダ +ハッタツ障害大流行考**

**江端一起**（キーサン患者会【前進友の会 精神病患者会】）

この間、半年かけて、この集会をやろうとする人たちと、  
交流を重ねて参りました。  
今のところ、ボクの知る限り、

**【公認心理師法反対の立場】で、  
【ハッタツ障害の大流行にも問題がある】**

という意識を持った皆さんで、  
ナニかをやろうとするのは、この皆さんだけのよう、に、想えます。  
もちろん、名目は御大層な「一般社団法人日臨心」を名乗っていますが、  
実態は、可哀想なもので、  
日臨心関東本家会計機関誌実権派とも言える諸君より、永久除名になり、  
あろうことか、日臨心関東実権本部学会が、被害を受けたということで、  
1000万の損害賠償請求裁判の被告五人の皆さんでやっているところです。  
えぼっちとしては、この訴えられた、ごくごく少数の過激派、  
自称「一般社団法人日臨心」運営委員の四人の皆さんに、  
『公認心理師にも、発達障害にもハンタイだ、と云う、根性の座り方』  
に、ナニか、アルと想って交流を続けているワケです。  
中のお一人は、月に一度は、お見えになりますので、  
よし、ワカッタ、国家資格にも、発達障害にも、反対なんやな、と云うことで、  
シンポジストとして、出場することを、本心から納得して、  
ヤルのナラ、ようおおいしい、いっちょ、ヤッタろうやないか、と想ってます。

**追記「宣伝文宣言門」**

ありがたいことです、ボクが、こうやって宣伝し始めましたら、交流のあるなかまの何人かの皆さまより、心配をしていただいて、「えぼっち、ほんまソコはだいじょうぶ、なんかあー」と云う声を頂きました。まことにまことに、ありがとうございます。ありがたいことです。御心配、ありがとうございます。

ソコで、ここに、追記「宣伝文宣言門」として、えばっち個人の今現在の覚悟と交流への希求を申し上げたいと想います。

まず、ハッキリと申し上げます、学会の内輪もめや分裂騒動や、どちらが正当か、などと云うコトには、金輪際毛頭、興味もなければ、関わり合いに為ることも、一切ありません。ソナもん、キチガイには、何らのかかわりもないことです。そも、学会などと云うトコロは、ワシ等キチガイにとっては「カチコミ」の対象でしかありませんヨ、ワシラには、関係の無いトコロですヨ、そんなモン。

ただ、何らかの学会に拘わっておいでの方が、イマの今時に、特に、心理系の学会にかかわっておいでの方が、次の四点にハッキリとした意見をお持ちである時、えばっちは、その意見に納得して、その方との交流は、徹底的に勧めていきたいと、想っているのです。えばっちが、交流のため、出向かさせて頂くコトも、その方が友の会にみえられることも、大賛成なのでアリマス。

そういうコトなのです。四点申し上げます

①心理職国家資格に賛成か反対か

②発達障害に賛成か反対か

少なくとも、発達障害概念のこれ以上の拡大に何らかの疑念を抱いておられるかどうか

③保安処分に賛成か反対か

④精神病患者会にナニか、特にセーカツにナニか在るのでは、と、少しでも期待しておられるかどうか、そして、それなら、交流してみたいと、ジッサイに行動されるのかどうか

この四点を、ナツク出来たら、えばっち個人としては、交流したいと、交流させて頂きたい、と、想っております。宜しく願いいたします。この四点、同時にハッキリと言えるみなさんは、実は、数少ない、のでは、と、想っております。もはや、危機的に危惧をしています。だからこそ、この四点を納得できたら、是非とも、交流したいです。えばっちは、行きたいです。そして、友の会に来てみてください。よろしく願いいたします。

以上追記でした

そこで、レジュメに、

シャリン雑誌前回23巻3号に掲載してもらったものを使おうと想っています。

もちろん、この集会参加者限定で、ちゃんと出典を明らかにして、使わせて頂きたいと想っています。

また、二本目の投稿原稿もナントカ、使えないものかとは想っているのですが、ムリなら、この二本目の内容を喋って来ようと想っています。

掲載は10月末の24巻2号になるとのことですので、

この集会には、間に合いませんね

それと出来ましたらこの集会のシンポジウム、

興味のある皆さんに、ドンドンと宣伝していただけないでしょうか。

すくなくとも、エバッチの話の中身は、一本目の原稿をレジュメに、

二本目の原稿の主旨をお話し、参加者の皆さんに、

## 『オマエは公認心理師を 取得するのかどうか』

と云う七首を突きつける、と云うものになる予定です。

ですので、少なくとも、エバッチの部分に関しては、このように、想っていますので、心理職国家資格化と発達障害の大流行のモンダイに関心のある皆さんに宣伝していただけたらと想います。

話をしようとする、この二本目の原稿の中身に関しては、平たく言ってしまうと、一本目の原稿の中身をレジュメにしてベースにしておいて、



徹底的に  
【発達障害と心理職の国家資格化のまことに旨味のアル関係】と  
【キチガイの生命の底で居直る  
しかナカッタ、その思い】  
を叫んでくるというものになると  
思います。

宜しくお願いいたします  
2016/5/6 起稿 前進友の会 キーサン革命の鬼 えばっちより

以下は、社会臨床雑誌に投稿させて頂いている  
二本目の原稿の一部紹介です  
社会臨床雑誌第24巻2号10月末発刊の予定とのこと  
最初の一段落分だけご紹介いたします

公認心理師  
＋プラス＋  
発達障害  
＝イコール＝  
ゼニ豚  
とはナンなのダ  
発達障害大流行と  
心理の国家資格化との  
関連性を  
心理学自体の批判を  
含みながら  
精神病患者会  
キーサンの立場から  
見てみれば、、、、

【発達障害の大流行が公認心理師をつくりだす】

コレね、実は最も重要な、今の今時に、イマのイマ時に、イー——マ——  
ついに、国家資格化されると云う重要な理由ワケだと想うんですよ。タワケた  
ワケですよ。

一本目投稿社会臨床雑誌第23巻3号所収  
最初の一ページ分だけご紹介いたします



# 公認心理師 とは ナンなのダ

なんと云うごうつく糞バカタレなアンポンタンなんだ

今回はハッキリと

言いきってしまおう

公認心理師とはゼニ豚である

銭ゲバ豚である

銭豚なのでアル

コイツは、リクツではない

ゼニのハナシなのである

莫大な銭儲けのハナシなのである。

想像を絶する、広範囲で、精神病院でも、学校でも、施設でも、軍隊でも、

銭を儲けることが出来る

油田のように大量にジャバジャバと、そして、金脈のように希少高価的にも

銭を儲けることが出来る、

医療保険点数の激増が、莫大増加が、

期待できるゼニのハナシなのである

精神医どもは、長くとも7分の、いやいや、大抵は、

5分から3分の診察室での与太話にもならない、二言三言のやり取りを

【精神療法】の名のもとに、一点10円の医療保険点数をつけて

詐欺的に、儲けまくってきたのである

今度は、公認心理師免許を取ったゼニ豚どもに、

医師の指導の下、カウンセリングルームの

【カウンセリング】と称するどうとでもとれる与太話に

ケッコウな医療保険点数が付くことと、相成ったのである

42条にハッキリと書いてあるのである

42条は、銭儲けの保障条項なのである

42条を巡って、キチガイにとってはドウでも良いヨウナ、

本当は良くないのではあるが、ソんな程度の腐った論争があるようなのだが、

例によって、医師の下に在るのはイカン、我々【心理私欲】は、

独立したエライさんでないと、認められん、と云う何時もの論調なのだが、

ナニを馬鹿なことを言っているのだ

この42条の本質とは、医療保険点数から、銭が落ちてくることが

保障されルノダと云う、ココロの底では、関係者全員が

待ち望んでいたであろう、

心理食のゼニ豚保障条項なのでアル

精神科、心療内科で、この領域で、今後、新規で、新造で、新制度で

これ程のボロ儲け口は、もはや、無いであろう

しかも、このゼニ豚のゼニ儲けは、

精神科のみならず、身体科でも、ナンデも有りに、為るハズである。  
例えば、内科病棟で、腫瘍にクルシム患者さんに腫瘍医の指導の下、  
公認心理師が話を聞けば、銭が医療保険から落ちてくるのである。  
整形外科や形成外科で、痛みにクルシム患者さんに外科医の指導の下、  
公認心理師が話を聞けば、銭が医療保険から落ちてくるのである。  
皮膚科で、イボに、水虫にクルシム患者さんに皮膚科医の指導の下、  
公認心理師が話を聞けば、銭が医療保険から落ちてくるのである。  
いやはや、ナントモはや、凄い銭儲けが、出来るのである。  
精神科、心療内科は、言わずもがな、でアル  
老人ホームでも、身体障害者施設、知的障害者施設でも、  
刑務所でも、少年院でも、大学でも、小学校でも、  
自衛隊イラク派遣軍シリア分遣隊でも、居酒屋でも、牛丼屋でも、  
いやいや、普通の会社でも、産業医とやらの指導の下、  
公認心理師が、ブラック企業の長時間労働の告発を聞けば、  
銭が医療保険から落ちてくるのである

////////////////////////////////////

小林万里子さんの発表予稿（要旨）は、大会専用HP内には掲載致しておりません。お話しする内容につきましては、社員（会員）宛送付版の予稿集ファイルの該当頁（この版）をご覧ください。

## 私は黒丸のマルタだった

小林万里子(ブルース系シンガーソングライター)

13歳時(1967年 7月から8月にかけて)の神戸大学医学部附属精神病院におけるホラー映画のような(731部隊におけるマルタ(人体実験被験者)のような)体験を時間の許す限り具体的に話させていただく。

- ・入院前の家庭内での虐待、兄による暴力など
- ・交通事故の検査のためと言われて母親によって病院に連れて行かれたこと
- ・主治医黒丸教授に「検査入院」とだまされて、精神病院大部屋に監禁されたこと
- ・脳波検査のやり方が後から考えると異様であり、癲癇の脳波を捏造したと考えられること
- ・黒丸教授に脳波がぐじゃぐじゃで、分裂病の脳波であり長期入院が必要と監禁の理由を説明されたこと
- ・入院後、黒丸、看護師の態度が豹変したこと
- ・入院中、病院関係者からナチのゲシュタポのような接し方をされ(映画「カッコウの巣の上に」に出てくる恐ろしい婦長のような振る舞いともいえる)、人間扱いされなかったこと
- ・薬物の大量投与について。毎食後お椀に山盛りの薬を飲むように強制される。看護師がト

イレまでついて来て、半分しかないドアの上から覗かれ薬を吐き出さないように監視される。毎晩、強力な睡眠剤を注射されたこと

・後にオウム報道で見た独房と酷似したものを監禁直後に見せられ、逆らうとぶち込むと脅されたこと

・退院の前の日に黒丸から、外へ出ても廃人になるだけだと言い渡されたこと。出してやるとは言われなかった

・退院の前の晩、屈強な看守たち数名により手足を持たれて大部屋から別の部屋に運ばれ台の上に乗せられて押さえつけられたうえ、臀部に太い注射を打たれたこと。その直後より気を失い3日間意識不明であったこと

・退院後の後遺症について。入院前は中肉中背で筋肉質であり健康面に問題はなかったが、退院後、心身ともに健康を害し、外見的にも顕著に変化をきたした。総白髪、不眠、過食症、肥満(特に腹部に偏った)、背中痛みなど

・家族による退院後の虐待が、入院前以上に熾烈を極めたこと。16歳で首をくくったこと

・17歳のころ極度の不眠故、他病院(精神科、神経科)で診察を受ける。脳波的に問題はなく、分裂病の脳波などそもそも存在しないと教えられる

・不眠症、神経症と診断され向精神薬を処方されるが副作用がひどく自己判断で服薬をやめたこと

・自分の身にだけ降りかかった特殊なホラー体験(両親の特異なキャラクターが災いし、黒丸という稀代のマッドサイエンティストの餌食になってしまった)と考えていたが、もっと幼い子供も含め、向精神薬薬物実験の対象になるなど、現在では類似の悪夢が広範囲にわたって襲い掛かっており(1億総マルタ化)、今後”公認心理師”制度の実施に伴い、より一層事態が悪化すると懸念されること

////////////////////////////////////

**(無題)**

**高橋 哲** (芦屋生活心理学研究所・  
兵庫県スクールカウンセラー/スーパーバイザー)

かしまった予稿原稿としてお知らせしたいことは、いまとくに思い浮かびません。当日、みなさんとお出会ったとき、お話ししたいことやお話しすべきことがおのずから見つかるのではないかと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

一般社団法人日本臨床心理学会  
平成28年度【法人化第1回】姫路大会 社員自主企画  
「思いつながら ころの交流展」

平成28年6月25日(土) 18:00~21:00 於：展示室

◇ポスター研究発表・活動報告

p01 妹尾諭

「護摩祈祷における修法者のころの変容」

要旨：高野山真言宗修法者への護摩祈祷過程に沿ってのインタビュー調査を行い、修法者のころの変容の様相を記述した。このプロセスを臨床心理学の領域で捉えることで、セラピー過程におけるセラピストのころの変容との比較研究に資することが期待できる。

p02 戸田弘子

「創造性教育における“折り紙”の効用～恩田彰先生を偲んで～」

要旨：昨年逝去した恩田彰(応用心理学実践研究者)が提唱した創造性発現の条件には所謂ADHDの特性がポジティブに捉えられている。本発表では、臨床心理学の日本的展開に尽力された恩田先生の“折り紙”の論考を紹介する。

p03 濱口暖 (代表)

「関西オルタナティブ協議会活動発表」

要旨：関西で活動するオルタナティブ協議会メンバーのこれまでの活動の詳細を紹介します。

p04 中川聡 (代表)

「オルタナティブ協議会神奈川活動発表」

要旨：神奈川で活動するオルタナティブ協議会メンバーの活動状況を報告します。

p05 山本真沙美

「日本ポールダンスセラピー協会」

要旨：日本ポールダンスセラピー協会の活動をご紹介します。

## ◇出展

### e01 長澤亜耶

展示：イラスト作品「幻獣たちの棲む世界」

内容説明：ドラゴンと獣人属のハーフであり、その力を恐れられ翼を切りとられた兄弟を主人公に、別の世界に棲む幻獣達を描いています。

### e02 良政寺・妙龍寺・普門院

展示：寺院の在り方を探る～様々な地域活動の〈場〉として～

### e03 栗野敦子

展示：コラージュ作品

### e04 山本真沙美

展示：量子音響療法とダンス療法

内容説明：波動の調整と、音叉や音楽などの音響療法と、音響量子が熱振動に代わる音波の性質を利用した音響免疫療法のメカニズムについて解説された専門書を、臨床で用いられているダンス療法の専門書と共に展示します。

## ◇出店

### s01 梅屋隆 (代表)

販売品目：無農薬野菜・果物など

### s02 良政寺 (出品代理：戸田)

販売品目：交通安全祈祷済「かえるステッカー」

### s03 前進友の会・やすらぎの郷《招待》

販売品目：廃油利用固形せっけん・前進友の会著書

### s04 小林万里子

販売品目：小林万里子・鷺尾悠持郎オリジナルCD

### s05 アトリエくりのみ

「コラージュ体験」 (参加費500円)

内容：コラージュを楽しみましょう♪気になる画像や言葉を切りとり、自由に組み合わせ用紙に貼るだけです。自分を客観的に見るきっかけになったり、行きたい方向が見えてきたり、おもしろいですよ♪

### s06 栗野敦子

販売品目：オリジナル絵はがき

### s07 森本操&片倉美保

「マヤ暦鑑定」（鑑定料500円/30分）

内容：人は自分自身の目的を生きるのにふさわしい日と星を選んで生まれてきます。マヤ暦鑑定では、あなたがどんな役割をもって生まれてきたかを知ること、あなた本来のエネルギーに沿った生き方を見つけ出すための手助けをします。

### s08 富永健一郎

販売品目：ワンピースのフィギア

### s09 長澤亜耶&栗野敦子

「マンダラ塗り絵体験」

内容：マンダラ風のオリジナル大会ロゴの線画に、あなたのお好きな色を自由に塗ってみませんか？

### s10 透音

「透音の星読み」（相談料500円~/15分程度）

内容：生まれた時の星の配置図であるホロスコープは、まさに千差万別で、人がそれぞれに違って、個性的な存在であることに改めて気づかせてくれます。一人ひとりのホロスコープを使った星読みがあなた自身を知る機会になることを心から願っています。

### s11 透音

販売品目：レジンを使った手作りアクセサリー

### s12 山本真沙美

販売品目：ハーブ苗（アロマセラピーの精油の原料で殺菌剤防虫剤などに使えるホワイトティーツリーの苗とマヌカ蜂蜜の原料のイエローマヌカの苗）

## □頭発表 (要旨)

平成28年6月26日(日) 9:30～11:45 於：中ホール

寛川幹朗 9:30～10:10 (質疑10:00～10:10)

「公認心理師法成立までの経緯と問題性」

要旨：心理専門職国家資格化に至る歴史的経緯と問題性について、解りやすく解説します。

酒木 保 10:10～10:50 (質疑10:40～10:50)

「クスリが不要となる発達障害へのアプローチ」

要旨：発達障害児童の心理治療の自験例報告。医療機関の治療に改善が見られなかった症例が、服薬が不要となっていく過程を、描画と箱庭作品の変容の様子（映像）を紹介しながら報告します。

中川 聡 10:50～11:30 (質疑11:20～11:30)

「サードオピニオン対話会の効用と課題」

要旨：10年以上もうつ病を患って回復することが無い。

統合失調症と診断を受けているが、多量の薬物療法を受けている。

減断薬をしたいがどうすれば分からない。

そういった精神科ユーザーに対し、社会精神医学とりカバリー理論に基づいた対話による回復を目指す試みを行っている。

全国、年間200名近い参加者の中で、年間30名近い回復者が現れている。その一方、中々、回復に至らない事例も多数ある。

これまでの実績の分析と、そこから判明した今後の取り組みの方向性を模索する。

総合討論 11:30～11:45



備考) 26日(日) 12:00~12:50(昼休憩中)に、「一般社団法人第1回定期社員総会」を中ホール(同じ会場)にて電磁的方法併用方式で開催します。社員各位は昼食等をご用意の上出席なさってください。定期社員総会議案書は、社員(6月19日正午までに申込書が提出され理事会にて承認された方)各位に、データファイルでお送り致します。どうぞお忘れ無くご持参ください。

## 《大会協力スタッフ》

◎申請事務他庶務：工藤美奈子・濱口暖

◎アートデザイン

大会ロゴ・社員参加証

作画・デザイン制作：長澤亜耶

作画・デザイン監修：栗野敦子

◎webテクニカルデザイン

総合案内リーフレット

テクニカルデザイン：工藤美奈子

公開シンポジウムポスター兼フライヤー

テクニカルデザイン：冨永健一郎

大会ホームページ

立ち上げ・技術指導：大平歩美

## 《開催支援者・助成団体》

宇部フロンティア大学心理検査研究所

NPO法人メンタルヘルス研究所

オルタナティブ協議会関西

心楽の会

杉岡信行氏

東淀川教会

姫路観光コンベンションビューロー

姫路市

姫路獨協大学

妙龍寺

良政寺

・・・オリジナル大会ロゴ・・・